

- ・国の戦略目標に基づいて未来のイノベーションの芽をはぐくむ個人型研究です。
- ・研究総括の下、年2回程度の合宿形式の研究報告会(領域会議)などを通じて、同じ研究領域に集まった研究者と交流・触発しながら3年間(または5年間)研究に取り組みます。
- ・さきがけ終了後も続く、ユニークなイノベーション・ヒューマンネットワークが形成されます。



さきがけの特徴

1. 研究機関に所属していなくても応募が可能

採択時に研究機関の身分を持っていない方も、JSTが雇用する「専任研究者」として、研究を実施することができます。

2. 強力な研究推進サポート体制

研究総括、アドバイザーの先生方から、研究推進にあたり様々なアドバイスを得ることができます。

3. 領域会議による異分野交流・人脈形成

合宿形式の領域会議では、研究総括、アドバイザーや異分野の研究者との交流が図れます。

4. ライフイベント時の充実した対応

育児、介護などのライフイベント時には、研究を一時中断することができます。最大1年間の研究機関延長が可能です。

さきがけ研究者紹介

湯浅新治さん

産業技術総合研究所
ナノスピントロニクス研究センター
センター長



「ナノと物性」研究領域
(2002～2005)

さきがけへの応募を考えていた頃、私はスピントロニクス分野の最重要技術である「磁気抵抗効果の大きさを一気に数倍に高める！」という、かなり無謀な目標を掲げてさきがけに採択されました。さきがけ研究を開始してから一年以上の間、何の成果も出ない日々が続きました。しかし、領域会議のプレッシャーにも後押しされながら頑張って研究を続けた結果、最終的に目標を超える成果を達成できました。さきがけ終了後は産業界と共同で研究開発を進め、ハードディスクの中核技術として実用化に成功しました。皆さんが今お使いのパソコンの中にも、「さきがけ発」の新技术が使われています。

豊島文子さん

京都大学ウイルス研究所 教授



「代謝と機能制御」研究領域
(2005～2008)

さきがけでは、細胞が分裂する方向の決定機構の解明に取組、細胞膜の脂質成分の重要性を明らかにすることに成功しました。私はさきがけに採択された時は助手でしたが、任期が切れたため、さきがけ専任研究者として研究を推進していました。さきがけ研究期間中には出産も経験しましたが、領域研究者の温かい励ましとJSTのサポートの御陰で、子育てを楽しみながら研究に取り組むことができ、今では自分の研究室を持つに至りました。

さきがけにはライフイベントを支援する体制もありますし、研究と家庭の両方を大切にしたい女性研究者にとって、とても心強い味方だと思います。

JSTは女性研究者を応援しています！詳しくは、さきがけ「なでしこ」キャンペーンをご覧ください。

<http://www.jst.go.jp/kisoken/presto/nadeshiko/index.html>